

いわき大会

2023. 10. 5

二度ほど県中学校教育研究協議会いわき大会に参加したことがあります。最初は、支部代表の正会員としてでした。若かったこともあり、どんな授業になるのだろうと楽しみにしながらいわきに向かったことを覚えています。支部の代表として、しっかり学んでこななければならないという自覚と使命感もありました。

メモをとりながら必死に授業を参観しました。生徒が生き生きと活動し、入念に準備された授業でした。事後の研究協議会では、様々な意見が出されました。授業者に質問したいことがありました。しかし、あの頃の私にはできませんでした。

二度目は、指導助言者として参加しました。学習指導案を読み、どんな授業になるのかイメージがわいてきました。よく練られた授業でした。会場では、「理事の先生」が運営に携わり活躍していました。私の知り合いの若手教員もいました。いわきの中教研に育ててもらっているのだなとわかりました。

他の地区での県大会でもそうですが、いわき大会から感じるのは安心感です。地域の広さや会員の数もあるのかもしれませんが、人を育てる組織として機能しているのです。今回も、数年前から支部長のリーダーシップの下、計画的に準備が進められてきました。その間、人も育ってきています。

県内の先生方は、日々、様々な工夫を重ねながら、授業改善に取り組んでいることと思います。各教科の授業では、興味や関心を高める、見通しをもつ、自分と結び付ける、粘り強く取り組む、振り返って次へつなげるなど、主体的な学びにつながる視点が生かされているのではないのでしょうか。また、互いの考えを比較する、思考を表現に置き換える、多様な手段で説明する、先哲の考え方を手掛かりとする、共に考えを創り上げる、協働して課題解決するなど、対話的な学びにつながる視点もあるでしょう。さらには、思考して問い続ける、知識・技能を活用する、自分の思いや考えを結び付ける、知識や技能を概念化する、自分の考えを形成する、新たなものを創り上げるなど、主体的な学びもあるはずです。

今回のいわき大会が、各地区持ち回りによる開催方法での最後の大会となります。福島県教育委員会、いわき教育事務所、いわき市教育委員会、中学校長会をはじめ関係機関の皆様のご支援があり、今大会を開催することができます。また、本大会のために準備・運営にあたっていただきました実行委員会の皆様、授業と会場をご提供いただきましたいわき地区の関係各中学校の皆様にご心より感謝申し上げます。

いわき大会が、いわき地区の先生方にとって有意義な研修の場となり、県内各支部からの参加者によって、本大会の成果が広く県内に行き渡り、会員の先生方がご自分の授業について考える契機となれば幸甚です。

本日は、福島県中学校教育研究協議会いわき大会の日である。上記のものは、大会要項に載せていただいた会長あいさつである。いわきの先生方には、今日の日を迎えるまで、数年前から計画的に準備を進めていただいた。その成果は、必ずや大きなものとなって、県内各支部に伝わるはずである。人を育てる組織としての底力があるいわき支部に敬意を表したい。そして、感謝である。